



NIPPON FUNDING

概要書

NIPPON FUNDING

／ 日本のために
私たちができること

NIPPON FUNDINGは、 日本の芸術文化を支援し未来へと引き継ぐ 社会貢献活動のための新しい仕組みです。

日本には、世界に誇るべき多様で高度な芸術文化があります。歌舞伎・能楽・人形浄瑠璃・舞踊・漆芸・陶芸・染織・金工・茶の湯・華道・武道・数寄屋造り・懷石・鮎・天麩羅……。そのすべてが、長い歴史を刻み、時代も世代をも越えて継承され、グローバル化とともにその存在価値をますます高めています。

ところが、その実態は、程度の差こそあれ、いずれもいささか厳しい環境に晒されています。中には、絶滅が危惧されたり、その継承が困難になっているものも……。今、ここで、それらに支援の手を差し伸べ、次代へと繋ぐアクションを起こさねば、未来の日本と世界に禍根を残すことになりかねません。

NIPPON FUNDINGは、そうした現状に一石を投じるべく構築する「日本の芸術文化支援」のための仕組みです。支援対象を日本の芸術文化に絞り込み、さまざまなプロジェクトを起案。企業や団体組織または富裕層など多くの方々の支援を募り、そのプロジェクトを実施することによって、日本の芸術文化を未来へと引き継ぐ活動につなげてゆきます。

私たちには、この国の素敵な文化を、世界に誇るその得難い価値を、次の時代・次の世代へと引き継いでゆく責任があります。

そのための重要な一歩。

それが、「NIPPON FUNDING～日本のために私たちができること」なのです。

第1弾 10年後の日本に豊かな国産漆を贈る **漆の森プロジェクト**

実施
確定

第2弾 「能の聖地」に檜の能舞台を贈る **能舞台奉納プロジェクト**

実施
確定

第3弾 伝説の桜守 十六代佐野藤右衛門の手で
祇園甲部歌舞練場に桜を植えるプロジェクト

10年後の日本に豊かな国産漆を贈る
漆の森プロジェクト



おくじ
【茨城県奥久慈に漆の森をつくり、日本の漆文化を次世代へつなぎましょう】

9000年以上前の縄文時代から日本人の生活や芸術文化と密接に関わってきた漆。自然界最良・最強の塗材といわれる漆を用いた日本の漆工芸は世界的にも名高く、陶磁器を“china”と呼ぶように漆器は“japan”と呼ばれています。けれど、明治以降の近代化の風を受け、化学塗料等が普及する中で、国産漆の生産は著しく減少。現在では国内流通漆の97%が国外産です。日本の国宝・重要文化財の修復や本格的な漆器の製作に欠かせない、国産漆が圧倒的に不足しているのです。漆の文化を支援する必要性は、世界が認識する喫緊の課題です。

漆の森プロジェクトは、高品質な漆の生産で全国的に評価されている茨城県奥久慈に漆の森を育て、日本の漆文化を支援する企画です。奥久慈の漆組合と協働し、ウルシノキを植え、漆の樹液が採れるようになるまでの約10年間、漆の森を育てます。また各種漆関連産業の発展と継承を支援します。

ひのき
「能の聖地」に檜の能舞台を贈る

とうのみね たんざん
多武峰 談山神社

能舞台奉納プロジェクト



【能の故郷・奈良県談山神社に檜の能舞台を贈り、公演継続を後押ししましょう】

奈良多武峰の山頂に佇む談山神社。世界で最も長い演劇生命と伝統を持つ世界無形文化遺産「能楽」の故郷といわれています。それは、まだ能が猿楽と呼ばれていたころ、後に能を大成した観阿弥・世阿弥をはじめとする芸能集団がこの談山神社の広場で毎年新作の芝居を披露していたから。彼らはここで芸を鍛え、現在の能へと磨き上げました。この歴史から談山神社では、毎春、現代の能楽界を代表する重鎮が一堂に会し「談山能」を開催しています。この談山能公演を今年は堂内ではなく、広場で開催。まさに世阿弥が舞い謡った広場での公演はとても盛況でした。この本来あるべき屋外での公演を継続するために、毎年使える組立式の能舞台が必要とされています。

能舞台奉納プロジェクトは、能の聖地である奈良県多武峰の談山神社にて2020年春に公演予定の「談山能」を、屋外の広場で開催するために必要な能舞台を制作し、神社に奉納する企画です。組立式でありながら、観世流をはじめとする能楽五流派の宗家や人間国宝認定の能楽師たちが演じるのにふさわしい、檜を使った本格的舞台を造ります。

伝説の桜守 十六代佐野藤右衛門の手で

祇園甲部歌舞練場に桜を植えるプロジェクト



【桜守・佐野藤右衛門氏の桜の木で、都をどり会場の新装と春を祝福しましょう】

“都をどりは ヨーイヤサー♪”の掛け声でおなじみ、毎春4月に約1ヶ月間開催され、京都花街の中でも圧倒的な人気と華やかさを誇る祇園の「都をどり」。この都をどりの舞台として1913年からずっと使われてきた祇園甲部歌舞練場は、現在耐震工事中で、都をどりは歌舞練場以外の会場での公演を余儀なくされています。破風も見事な美しい建築で、祇園になくてはならない大切な建物であるこの歌舞練場が、2022年に長い工事を終え甦ります。そしてここに再び帰ってくる都をどりを祝福するため、歌舞練場に桜の木を植えようというのが本プロジェクトの趣旨。桜の木を選定して植えていただくのは、江戸時代から続く京都の庭師・十六代目佐野藤右衛門さん。円山公園の祇園枝垂れ桜をはじめ、全国各地の桜を育成する伝説の桜守として名高い氏に、幾千年も咲き誇る桜の木を植えていただく、その支援を必要としています。

祇園甲部歌舞練場に桜を植えるプロジェクトは、京都の春の風物詩・都をどりの会場で、2022年に新装開場を迎える京都・祇園甲部歌舞練場内（現在、耐震工事のため休館中）に、桜の木を植える企画です。桜守として知られる十六代佐野藤右衛門氏が手ずから植えた桜の木で、祇園甲部歌舞練場のリニューアルと京都の春を華やかにお祝いします。